

校長室だより

子どものためにしてあげたいことと働き方改革

学校でも働き方改革を進めなければならないと考えています。先生たちは子どものためにできるだけのことはしてあげたいという考え方で日々、教育活動をすすめてくれています。そこで悩ましい問題が起こってきます。放課後に起きた出来事でも問題解決に向けて聞き取りなどの話を聞くことになります。また保護者の方が午後6時以降に懇談を入れてほしいというお願いにも何とかしようとしてしまいます。しかし、働き方改革という視点で考えて、どちらも遠慮してもらうよう、校長として指示を出しています。**放課後に起きた出来事に関しては基本的には「保護者の責任」ということになります。**夜遅くの懇談や話し合いに関してもできるだけ**早めの時間に変更してもらうことになります。**また**SNSなどによるトラブルも基本的には保護者で対応してもらうことになりますが、「いじめ」となるとそういうわけにはいきません。**きちんと話をきいて、解消に向けて取り組んでいきます。ちなみに、地域の人とのトラブルや他校の子どもとのトラブルがあった時に、**警察に相談した方が良い場合は**そのように伝えることがあります。

先生の仕事は、授業をすることで学力をのばし、学校での生活指導をして上手に他者と関わることができるコミュニケーション能力を高めることです。そして多様な人の意見を聞きながら折り合いをつけていく民主的な人間に育てることです。そのためには先生たちに何を大切にして、何を優先させるかを考えて指導に当たるように話をしています。

11月24日は「和食の日」でした

本校には栄養士が在籍しています。その村田栄養士が各クラス、学年で「食育」を行っています。先日、一年生で「和菓子」についての授業を行いました。日本には季節によって様々なお菓子があること、そして、子どもたちに対して「長生きしてほしい」「大きく成長してほしい」という大人や社会の願いや思いがこめられていること、だから行事ごとに和菓子を食べる風習があることを教えました(子どもたちは千歳飴食べてみたいな~という感想が多かったのですが)。

私は現代の子どもたちの生きづらさやしんどさの原因の一つに「食」があるのではと思っています。洋食が中心になって小麦や乳製品を多く摂取するようになってきています。そのことが心や体の成長に影響があるのではないかという考え方です。欧米では日本食の価値が高まっているそうで、ユネスコの無形文化遺産に「和食」が登録されたそうです。

何人かの精神科医が治療の一つに「食」を挙げています。また欧米でも無農薬や有機野菜などのオーガニック食材を使った食事に変えたところ、子どもたちの心が元気になっていったという話も聞いたことがあります。「食」について、一度見直してみてはいかがでしょうか。